

臨床医学研究のお知らせ

聖路加国際病院では、将来の医療を向上させるため、臨床医学研究を行っています。つきましてはご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。なお、個人情報 は 厳重に管理させていただきます。

研究計画や研究方法に関する資料をお知りになりたい場合は、他の患者さんの個人情報や研究全体の目的や進行に支障となる事項以外はお知らせすることができます。ご質問がありましたら下記連絡先にお問い合わせください。

この調査では、ご協力を拒否することも自由です。もし、研究へのデータ・試料の利用を望まない場合は、下記の連絡先までご連絡いただくか、医療スタッフへ申し出てください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

住所：〒104-0044 東京都中央区明石町 9-1

電話：03-3541-5151

担当者の所属・氏名 麻酔科：藤田信子

【研究責任者】

聖路加国際病院 麻酔科 藤田信子

HoLEP(経尿道的ホルミニウムレーザー核出術)を受けた方を対象とした灌流液(手術中に膀胱内に注入する生理食塩液)が術中の体温に及ぼす影響に関する研究

1. 研究の対象

2017年4月から2018年9月までに聖路加国際病院で経尿道的ホルミニウムレーザー核出術(HoLEP)を受けられた方

2. 研究の目的・方法

周術期の患者は、低い室温や冷たい輸液など体温が低下しやすい環境にあります。周術期の体温が 36℃を下回ること、術後の手術部位感染の発生率や心血管合併症は増加し、また術中から術後にかけての出血量が増加するという報告もあります。このような低体温の合併症を予防するための体温管理は、近年重要な周術期管理の一つとして位置づけられています。

聖路加国際病院では周術期の体温管理として、温風式加温装置により手術室入室時から患者の加温を行なうことで、低体温の予防に努めております。しかし、前立腺肥大に対して行われている経尿道的ホルミニウムレーザー核出術：holmium laser enucleation of the prostate (以下、HoLEP) では、術中に体温が低下傾向で経過することが散見されています。この術式では、前立腺を核出する際に用いられる膀胱内への灌流液として、体温よりおよそ 10℃近く低い室温の生理食塩水を使用しており、他の術式に比べ常に膀胱から多くの熱を喪失していると考えられます。

HoLEP では、前立腺を回収するために、膀胱内に多くの灌流液を注入し、膀胱を緊満させて手術をする過程があります。そのため、低体温となるリスクが高いと考えられますが、HoLEP における低体温について調査された研究はわずかしかありません。そこで、本研究では HoLEP を受けられた方のデータを分析し、術中の体温変化と灌流液の影響を明らかにすることを目的としました。

1. HoLEPの術中の体温変化を調査します。
2. HoLEPで使用される灌流液が体温に及ぼす影響を明らかにします。

なお、この調査では通常の保険診療以外の医療行為はなく、診療録（カルテ）に記載される内容についての調査のみとなります。調査期間は研究倫理審査委員会承認後～2019年3月31日までの予定です。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

主なデータ項目は以下となります。

情報 : 個人情報(氏名、年齢)身長、体重、術前合併症疾患、カルテ番号、既往歴、手術日、麻酔リスク分類、等
麻酔記録 : 麻酔方法、術中体温、総出血量、総輸液量、尿量、麻酔開始終了時間、手術開始終了時間、灌流液量、ふるえの有無 等